



医者になつて56年



医療法人かがやき 後藤クリニック
院長 後藤與四之先生

私は熱海で生まれ育ち素潜りが得意で最大25m潜れました。息こらえ潜水は肺一杯に吸い込んだ空気中の酸素を最大限有効に使うのがコツです。深場では時間経過と共に酸素は消費されますが息苦しさは感じません。一方浮上時には減少した肺内酸素は浮上と共に全圧が減少し、水面近くでは急激に酸素分圧が減少するので最高に息苦しい状態でした。それから5年が過ぎ、急いで歩くと切れを感じ、息子から「体力維持のため酸素療法が必要」と諭され酸素療法を始めて3か月になりました。

空咳が続き風邪にしては変だと感じ呼吸器内科で診てもらうと間質性肺炎と診断されました。それから5年が過ぎ、急いで歩くと切れを感じ、息子から「体力維持のため酸素療法が必要」と諭され酸素療法を始めて3か月になりました。

先日東京都知事選挙がありました。小笠原諸島が都に返還直前の一九六八年、作曲家の團伊玖磨さんが東京都の最南端で潜らないかと誘ってくれました。その旅行記は週間朝日カラー別冊創刊号と團さんの著書「九つの旅」に詳述されま

さ百mの火山の芯です。小笠原航路途上の奇岩として観光スポットに紹介されています。また海底火山の概要是二〇一九年4KのNHKスペシャル秘境探検「東京口ストワールド」で驚くべき詳細が明らかになりました。

56年前の冒険は、台風の合間を見計らい最高時速13kmの木造船で八丈島から出港しました。團さんと朝日新聞記者さんなど合計14名が舵輪でなく長い棍棒が大半を占める操舵室とその下にある6畳ほどの板張りのスペースに雑魚寝しながらの航海なので一週間掛かり

十代にこの訓練で鍛えた私は低酸素耐性を備えた体质を獲得していると思っています。しかしながら80歳になり慢性呼吸機能障害に罹患した今はどうでしょうか?

十代にこの訓練で鍛えた私は低酸素耐性を備えた体质を獲得していると思っています。しかしながら80歳になり慢性呼吸機能障害に罹患した今はどうでしょうか?

今回は60号記念として、後藤先生に呼吸についてさまざまなエピソードをお寄せいただいたので、特別編集でお届け致します。



絶海に突き出た妬婦岩

当时此処まで南下する漁船は青漁丸が唯一で、年に数回しか到達できません。魚達は食べ物が撒き散らされたのを覚えているのか、漁船が岩の周囲を回つただけでも大きさ30cm余りの黒い魚(イズスミ)が水面に湧き上がってきました。乗組員は釣るのは面倒だと言つて、船べりからたも網で掬つて捕つっていました。既に太陽は傾き薄暗くなつていたので、船上から覗くと海中は不気味でした。が意を決して飛び込みました。

水面から2~3mはイズスミで先が見えません。魚をかき分けて潜ぐるのは初めての体験でしたが驚いたの

ました。9月中旬の午後4時に妬婦岩到着、穏やかと言つても潮流は妬婦岩に直接当り双方向に別れ再合流し流れ去るので、渦が巻き少なくとも2ノット。(時速約4km)の潮流があります。支度を調えた私は、流れが緩い船の上から落としてもらいました。



団琢磨さん(左)と

60キロの魚と65キロの人間と

はその先。カンパチや鰯が見渡すかぎりに泳ぎ周り、しかもそれは数mの層をなっていたのです。さらに水深下10mには体重数十キロの磯マグロが大群で泳いでいました。私は限界の20m程潜ると、恐ろしいことに長さ3~4mのメジロ鮫10数匹が上方を伺っていました。気付かれないようにそつと浮上すると、さすがに息は苦しくなっていました。船上で待つ仲間にいました。見た興奮を伝え、改めて支度を整え磯マグロを獲りに潜り、群の中では比較的小柄な23kgのマグロを仕留め船に戻りました。

息こらえ潜水では一瞬の息苦しさをスポーツとして

楽しみましたが、今は「慢性の息苦しさって有るのかな?」と想像しながら酸素を吸いつつ、毎週特養の嘱託医回診をこなし、10名近くの在宅患者さんの訪問診療も行っています。

我が母校慈恵には宇宙医学研究室があります。私は

一九六八年宇宙飛行士の基礎的研究に従事し被験者となりました。無重力状態下の尿量についての実験です。当時有人飛行が始まつたばかりで、まだ日本は人工衛星を飛ばせませんでした。申請に必要な検査で6分間歩行があります。PT(理学療法士)さんが酸素飽和度測定器をチェックしながら伴走してくれました。予定の半分ほど歩くと「止まって休んで下さい」と指示されました。酸素濃度が83%に下がってたからで、結局320mしか歩けず、息苦しさは感じませんでしたが、結果はStage IIIの特

でしたが、呼吸抵抗が大きく水が漏れ命がけの実験だつたと記憶しています。それでも褒美として翌年の日本生理学会で共同研究者として初めての学会発表を経験できましたが、学術的内容は記憶にありません。

さの体験は、昭和20年代末頃、母親に映画を見に連れて行かれるとき何時も感じていました。当時唯一の娯楽である映画館はひどく混み、換気扇がろくに設置されておらず、酸欠と二酸化炭素中毒の症状だったのです。

次の体験はスキューーバダイビングを始めた昭和30年代です。当時ダイビング用のボンベは高価なので、私は米軍下げのB29消防器ボンベを流用加工した機材を手に入れて潜つてました。今ではレジャーダイビングの教科書にも「潜水中の浅い呼吸はスキップ呼吸と呼ばれ、極めて危険」と明記してあります。当時は知らないので貴重な空気を節約しスキップ呼吸でいつも潜つていました。地上で無重力環境を再現するには実物大模型で習熟しなければなりません。地上で無重力環境を再

頭痛は血中二酸化炭素分圧の増加で脳血管が拡張し、その結果の脳圧亢進で起こります。浅い換気だと潜水機材を含む空気の通り道を空気は行つたり来たりし（dead space）、肺胞までは新鮮な空気が届かないで、結局酸素不足に陥り、同時に二酸化炭素の蓄積で頭痛と吐き気をきたすのです。

さて専門医で間質性肺炎と診断が確定されて5年目になりました。無重力状態下の尿量についての実験です。当時有人飛行が始まつたばかりで、まだ日本は人

千円もする薬を朝夕飲むために難病認定を申請しました。申請に必要な検査で6分間歩行があります。PT(理

学療法士)さんが酸素飽和度測定器をチェックしながら伴走してくれました。予定の半分ほど歩くと「止まって休んで下さい」と指

示されました。酸素濃度が83%に下がってたからで、結局320mしか歩けず、息苦

しさは感じませんでしたが、結果はStage IIIの特

でしたが、呼吸抵抗が大きく水が漏れ命がけの実験だつたと記憶しています。それでも褒美として翌年の日本生理学会で共同研究者として初めての学会発表を経験できましたが、学術的内容は記憶にありません。

記憶に残る最初の息苦しさの体験は、昭和20年代末頃、母親に映画を見に連れて行かれるとき何時も感じていました。当時唯一の娯楽である映画館はひどく混み、換気扇がろくに設置されておらず、酸欠と二酸化炭素中毒の症状だったのです。

次の体験はスキューーバダイビングを始めた昭和30年代です。当時ダイビング用のボンベは高価なので、私は米軍下げのB29消防器ボンベを流用加工した機材を手に入れて潜つてました。今ではレジャーダイビングの教科書にも「潜水中の浅い呼吸はスキップ呼吸と呼ばれ、極めて危険」と明記してあります。当時は知らないので貴重な空気を節約しスキップ呼吸でいつも潜つていました。地上で無重力環境を再現するには実物大模型で習熟しなければなりません。地上で無重力環境を再

頭痛は血中二酸化炭素分圧の増加で脳血管が拡張し、その結果の脳圧亢進で起こります。浅い換気だと潜水機材を含む空気の通り道を空気は行つたり来たりし（dead space）、肺胞までは新鮮な空気が届かないで、結局酸素不足に陥り、同時に二酸化炭素の蓄積で頭痛と吐き気をきたすのです。

趣味が高じての潜水医学研究者として最後に係わったのは、宇宙飛行士の訓練施設でした。宇宙ステーションのメインテナンスを確実に行うには実物大模型で習熟しなければなりません。地上で無重力環境を再



後藤クリニック様 邑楽郡邑楽町篠塚3070-1

現出来るのは水中のみです。一九九五年宇宙開発事業団(現在のJAXA)は筑波に直径16m、深さ10・5mの巨大なプールを作りました。訓練を受ける宇宙飛行士は二千万円もする訓練用の宇宙服を着て数時間潜るので安全対策として潜水医学者の私も招聘されました。



お兄様が書かれた絵

さんが僅かだった一九九七年までで、開始後は頻度が増えるので東海大学救急部の研究仲間に頼み教室員に出席してもらいました。

私は部長待遇の特別研究員として潜水病予防を担当しました。年数回の会議を経て実験棟での訓練に立ち会いました。しかしながら突然教授選から外されたので一九九六年に開業を決意し

在宅医として28年間頑張つて多くの癌患者さんをお看取りさせて頂きましたが、自分では最も罹りたくなかつたのは「息苦しい」慢性呼吸障害でした。さいわい緩和医療の適応は癌以外にも拡大されました。今年6月からは心不全や呼吸不全の末期には鎮痛麻薬が保険が適用されたので、頑張りつきたら仲間の在宅医の緩和テクニックに任せようと考えています。



上毛新聞社から出版された
峯岸さん著『縁起だるま』

いきいきHOTさん

高崎市 峰岸勘次さん
(96歳 HOT歴6カ月)

いきいきHOTさん

Oct.
2024



中喜屋さんの「だるま展示館」
峰岸さんが寄贈しただるまがあるかも?

『』として2冊の本が上毛新聞社から出版されました。かつては全日本だるま研究会の理事も務められ、一時期は周囲からだるま先生と呼ばれていました。NHKや群馬テレビにも何度か出演したこともあります。また全国のだるまをコレクションし、家の中はだるまだらけの状態だつたそうです。収集しただるまは老人ホームに入居するにあたり、中豊岡にあ

峯岸さんは生まれた豊岡地域は、江戸時代に山縣友五郎が人々の厄除けを願い、だるまづくりを始めました。以来この地域を中心になくさんのだるま職人が生まれ、高崎だるまの里と呼ばれるようになります。だるまととても近いところで生まれ育ったせいか、峯岸さんは学生時代からだるまに興味を持ち、だるまの研究、さらには達磨大師の研究をずっと続けてこられたそうです。その研究は本格的なもので、平成13年に『縁起だるま』、平成21年には『続縁起だる

（なかきや）さんに寄贈されたとのこと。現在は同店のだるま展示館で大事に保管されています。



最近の作品



峯岸さんにはもうひとつ、墨絵の特技があります。定年退職後、横浜の日本禅画家協会に入門され、10年以上学びました。禅画家協会では法学院に月に一度描いたものを提出するのですが、数枚ではダメ

つ、墨絵の特技がありまです。定年退職後、横浜の日本禅画家協会に入門され、10年以上学びました。禅画家協会では法学院に月に一度描いたものを提出す

るのですが、数枚ではダメ

で、30枚、50枚と提出しなければ丸がもらえません。たくさん書くことが上達の近道ということを学びました。墨絵が得意で達磨や七福神の絵などの禅画の他、中国風の墨絵も学

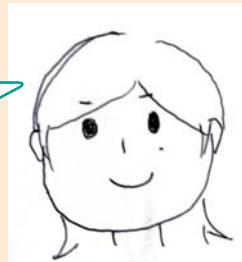
び、寒山拾得なども書きました。雅号は青霧（せいしょう）といいます。今はホームページにいるので墨を使え

ます。筆で描いています。入所した当時は部屋で寝ていて、来受診くらいしか部屋から出ることがあります。せんでした。でも在宅酸素を始めた頃から元気が出て、絵を描いてみる気になりました。今では15分位描いて、一度休んでまた描くことを繰り返し、一時間程度で一枚が完成します。最近は植物の絵や吹割の滝など、かつて旅行に行つた先のことなどを思い出しながら描いています。手を使うことでリハビリになり、生活にも張りが出ます。ホームの看護師さんや介護職員さんがとても良くしてくれるので、おかげで絵が描けるようになつたと感謝しています。



アニメ「チェンソーマン」のポチタというキャラクターのグッズをたくさん集めています！

HOTな社員紹介



やまだ
山田
糸乃
東毛地区点検配達担当

去年の4月よりお世話をなっています山田と申します。みどり市・桐生市・足利市方面の酸素濃縮器の点検とボンベ等の配達を行っています。前職は整体師で、人体の構造と機能を覚え、たくさんの方々と接してきました。マルホンでの仕事内容は、今までとまったく違うので一年半たった今でもあたふたしてしまうことがあります。患者様に話しかけてもらいたくこと、また新鮮で、日々の樂しみのひとつになっています。太田営業所の河合さん・柏倉さんの影響をうけ、趣味に新たにガーデニングが加わり、塊根植物を育てはじめました。最短半日・植物という植物を枯らしてきた私ですが、今回は最後まで育てられるよう頑張ります。よろしくお願ひいたします。

編集後記



1年間編集委員をさせていただきました。ご協力いただきました医療機関様、患者様ありがとうございました。これからも医療機関様、患者様の期待に応えられるよう頑張っていきたいと思います。
まなぶ

コロナが増えてきました、これから秋に近づいてくれば段々インフルエンザの時期になります。皆様も感染症に気を付けてもらわなければと思います。

はらだ

峯岸勘次様、いきいきHOTさんのコーナーにご協力頂きありがとうございました。これからも素敵なお絵を描き続けてください。
ゆきと

厳しい残暑も終わろうとしています。くれぐれも健康に注意したいと思います。ありがとうございました。

すなが



株式会社マルホン

医療事業部 在宅医療部

在宅医療に、より快適さを。

発行日：2024年10月1日

発行：株式会社マルホン「HOTでスマイル」編集委員会

発行責任者 鈴木武

住所：群馬県前橋市問屋町2-16-11

電話：027-210-7222